

3. 現地踏査

現地踏査の結果を以下にまとめる。

<p>1. 傾斜のある地形</p> 	<p>2. 海を見渡すことができる</p> 	<p>3. 平坦な地形及び道路</p> 
<p>4. 小湾遺跡付近。植生とともに遺跡らしきもの残っている</p> 	<p>5. 緩やかな傾斜を利用してつくられたハウジングの高台より。海を見渡すことができる</p> 	<p>6. 自然の海岸線が形成されている</p> 
<p>7. 海岸はサンゴの干出浜</p> 	<p>8. 海岸線には自然が残っている</p> 	<p>9. 海岸線沿いにはテリハクサトベラ（ローカルネーム：ハマスーキ）が見られる</p> 

<p>10.光沢のあるテリハクサトベラの葉と海が織りなす自然風景は、那覇近郊の西海岸ではあまり見られない</p> 	<p>11.透明感のある水質であり、一般的にイメージされる沖縄の海を感じられる</p> 	<p>12.海方向の風景は広がりを持っている</p> 
<p>13.当該道路は平坦である</p> 	<p>14. 当該道路は平坦である</p> 	<p>15.城間遺跡付近。遺跡らしきものが残っている</p> 
<p>16.高台より。海を見渡すパノラマの風景が広がる</p> 	<p>17. 高台より。海を見渡すパノラマの風景が広がる</p> 	<p>18. 高台より。海を見渡すパノラマの風景が広がる</p> 
<p>19.淑口原古墳群付近の西側。傾斜のある植生が広がっている</p> 	<p>20.高層集合住宅が北側の海寄りにつくられている</p> 	<p>21. 淑口原古墳群付近の北側。傾斜のある植生が広がっている</p> 

<p>22.高層集合住宅の北側に亀 甲墓が2～3基残っている</p> 	<p>23.嵩下原古墳群付近。植生と ともに亀甲墓（空き墓）が残っ ている</p> 	<p>24.当該道路は平坦である</p> 
<p>25.高層集合住宅。人が住んで いる気配は感じられなかった</p> 	<p>26.海没地</p> 	<p>27.アンテナ施設が建ってお り、周囲に建物は無い</p> 
<p>28. 地区外は緑地帯となっ ている</p> 	<p>29. 北側ゲート外側の道路は 勾配がある</p> 	<p>30. 地区外は緑地帯となっ ている</p> 
<p>31. 地区外の緑地</p> 	<p>32. 港川道路は、おおよそこ の位置を通る</p> 	<p>33. 港川道路は、おおよそこ の位置を通る</p> 

<p>34.この辺りからも海を見渡すことができる</p> 	<p>35. 港川道路は、おおよその位置を通る</p> 	<p>36.ゲートから地区内へ入っていく平坦な道路</p> 
<p>37.ゲートへ向かう道路。南側に沖縄電力の施設（返還済区域）がある</p> 	<p>38.国道58号より2m程度低くなっている</p> 	<p>39.地区内から屋富祖通りを見る</p> 
<p>40.まっすぐに伸びる道路。浦添都市軸にあたる道路である</p> 	<p>41.国道58号より2~3m程度低くなっている</p> 	<p>42.倉庫群内の道路。倉庫群内はほとんどが平坦であるが、南東~北西ラインの道路には一部勾配がある</p> 
<p>43. 倉庫群内の道路。倉庫群内はほとんどが平坦である</p> 	<p>44.メミザ原古墳群付近。墓は確認できなかったが、傾斜のある植生が広がっている</p> 	<p>45.海側の低地と高台の倉庫群をつなぐ道路。高低差があるため、等高線に逆らわず配置されている</p> 

<p>46.メミザ原古墳群の南東側と倉庫群との境</p> 	<p>47.高台の倉庫群より。海を見渡すパノラマの風景が広がる</p> 	<p>48. 高台の倉庫群より。海を見渡すパノラマの風景が広がる</p> 
<p>49.メミザ原古墳群の北西側。傾斜のある植生が広がっている</p> 	<p>50.南側ゲート。現在は利用されていない</p> 	<p>51.国道 58 号より 4~5m 低くなっている</p> 
<p>52.倉庫群内の道路は平坦である</p> 	<p>53.この辺りでは国道 58 号との高低差はなくなっている</p> 	<p>54.国道 58 号からのゲート</p> 
<p>55.南側の地区界は傾斜のある植生地帯となっており、その外側に小湾川が流れている</p> 	<p>56.北東側の地区界は東空寿古墳群を含む植生地帯となっている</p> 	

図. 現地踏査図



